

私の視点

siten@asahi.com

英王立統合軍防衛研究所(RUSI)所長

マイケル・クラーク



◆アフガン派遣

国際評価高めない海自撤収

いる英国の立場としては、アフガン派遣にできるだけ幅広い支持を得たいと考えており、参加国の数が非常に大切になる。

海上自衛隊をインド洋から撤収させた日本の決定は大変残念だ。仮に人道面といった形であれ、日本がアフガンでの活動に何らかの形で参加してくれるのであれば、歓迎したい。

アフガニスタンでの国際治安支援部隊(ISAF)や、イラク作戦に参加している国は多いが、各国とも国内の様々な制約の下で活動している。例えば37カ国が参加しているアフガンの活動では、72種類もの異なる条件の中で派遣要員は活動している。

各国の政治的事情はあるだろうが、安全保障に関しては純粋な国内問題というものはあり得ない。アフガンでの活動に深く関与して

欧州の一般大衆の目にはあまり好意的には映らない。イラク作戦に関しては英国においても政治的に様々な議論があったが、アフガンについては国際的なコンセンサスがあり、状況が大きく違う。アフガン作戦が失敗すれば、機能しなくなった国家を拠点にアルカイダが再び台頭することになりかねない。その影響はすべての国にかかわってくる。

日本がインド洋で行ってきた給油活動は実効性のあるものだった。日本が給油をやめれば、米国や英国が補給艦を出して何とかするだろう。しかし、給油活動が中断されるだけでなく再開されないことになる。

作戦の目的が達成できるかどうかにも影響を及ぼす。え、政治的な側面への影響も避けられない。日本がアフガン作戦の合法性を問題視したことになるからだ。

アフガンの治安状況は好転せず、作戦は最近までうまくいっていない。01年に活動が始まった時は国際社会が十分に関与せず「国づくり」のための資金や活動人員も十分だった。しかし、北大西洋条約機構(NATO)軍がきちんと関与することが決まってきた状況が変わった。成功例が着実に積み上げられ、NATOが主導する形で、タリバーンを抑え込んでいる。アフガンが成

功する可能性は十分ある。日本とNATOとの関係については、日本側が具体的な提案をしてくれば、それを好意的に受け止める態勢がNATO側にはあると思う。ただ、NATO自体が国際的な軍事機構として存続しうるのかどうかということがその前提としてあり、それはアフガン作戦の成否にかかっている。そういう意味では、NATOと日本との今後の関係はアフガン作戦が成功するのかどうか、あるいはアフガン作戦の正当性が国際社会で認められるのかどうかということと密接に関連している。

キングスカレッジ国防研究センター所長などを経て現職。王立国際問題研究所理事も兼務。